「世界の潤滑油添加剤市場2022年－2031年：製品別（粘度指数向上剤、流動点降下剤、洗浄剤、分散剤、酸化防止剤、その他）」調査レポート（市場規模・動向・予測）を取り扱い開始しました

2022年12月15日
株式会社マーケットリサーチセンター

株式会社マーケットリサーチセンター（本社：東京都港区、世界の市場調査資料販売）では、「世界の潤滑油添加剤市場2022年－2031年：製品別（粘度指数向上剤、流動点降下剤、洗浄剤、分散剤、酸化防止剤、その他）」調査資料の販売を2022年12月15日
に開始いたしました。潤滑油添加剤市場規模、動向、予測、関連企業の情報などが盛り込まれています。

■レポートの種類：グローバル市場調査レポート
■レポートのタイトル：世界の潤滑油添加剤市場2022年－2031年：製品別（粘度指数向上剤、流動点降下剤、洗浄剤、分散剤、酸化防止剤、その他）
■英文タイトル：Lubricant Additives Market [Product: Viscosity Index (VI) Improver, Pour Point Depressants (PPD), Detergents, Dispersants, Antioxidants, and Others] - Global Industry Analysis, Size, Share, Growth, Trends, and Forecast, 2022-2031
■発刊日：2022年12月5日
■出版社：Transparency Market Research（トランスペアレンシーマーケットリサーチ）
■レポート形態：PDF（Eメールによる納品）

■主な掲載内容
潤滑油添加剤は，有機または無機の化合物で，基油に懸濁させ，一つの混合液を形成するものです。油の全量に対して，これらの添加剤は約 0.1～30%
の範囲で存在します。潤滑油製造会社は、さまざまな運転条件下で基油の特性を向上させ、機械の高い性能を満たすために、潤滑油添加剤を広く利用しています。
これらの添加剤は、それぞれの機能に基づいて、粘度指数向上剤と流動点降下剤（PPD）に分類さ

れます。これらは、ベースオイルの本質的な特性を向上させるために使用されます。洗浄剤と分散剤は新たな特性の付与とエンジンの金属表面の保護に、酸化防止剤は潤滑油の保護物質として使用されます。
添加剤の主な役割は、基油に新しい性質を与えること、既存の基油の性質を強化すること、望ましくない基油の性質を抑制することです。そのため、添加剤は自動車用潤滑油、工業用エンジンオイル、一般工業用オイル、金属加工油、グリース、プロセスオイルなどに広く使用されています。このことが、世界各地の潤滑油添加剤市場の発展を後押ししています。

潤滑油添加剤は、油の化学的・物理的パラメータを制御するために使用されます。化学的パラメータには、高温および酸化に対する耐性、泡の抑制、腐食防止、シール適合性、せん断安定性、低温流動粘度、粘度上昇による増粘、低揮発性、すす拡散が含まれます。
油の物理的パラメータとしては、摩擦低減、耐摩耗性、油膜厚の維持、熱伝達、後処理装置との相性、スラッジや堆積物の処理などがあります。
さらに、粘度は潤滑油の重要な物理的特性と考えられており、油の分子間相互作用とその結果としての流動抵抗を測定するものであります。潤滑油の粘度は温度上昇とともに低下し、相対運動する部品間の潤滑膜の厚みを減少させることがあります。そのため、粘度と温度の関係を保つために粘度指数向上剤（VI向上剤）が広く使用されています。
注液点降下剤は、その望ましい特性から、予測期間中に需要が大きく伸びると予想されます。流動点降下剤（PPD）は、潤滑油の流動点を降下させるために広く使用されています。これは、潤滑剤を液体状態に保ち、比較的低い温度での流動性を向上させるのに役立ちます。

自動車の排出ガス削減や省資源化のために、自動車の設計や潤滑の改善が重要視されています。潤滑油添加剤は燃費向上に貢献し、乗用車や商用車の摩擦を減らすことで二酸化炭素排出量の抑制に好影響を与えます。
米国では、乗用車の製造における企業平均燃費（CAFE）基準が中心となっています。これは、道路輸送が二酸化炭素やその他の温室効果ガスの排出の約25%に相当する主要因となっているためです。
欧州では、ACEAと欧州委員会の自主的な合意による目標が達成されなかったため、違反した場合に罰則を科す排ガス規制が制定されました。したがって、予測期間中の欧州の潤滑油添加剤市場予測は、非常に有望であると推測されます。

製品別に見ると、世界市場は粘度指数（VI）向上剤、流動点降下剤（PPD）、洗浄剤、分散剤、酸化防止剤、その他（極圧（EP）添加剤、腐食・防錆剤）から構成されています。
2021年の市場シェアは、分散剤セグメントが数量ベースで25.6％と突出しています。分散剤は、エンジン表面を清浄に保ち、堆積物がないようにするために、洗剤とともにエンジンオイルに広く使用されています。分散剤の主な目的は、ディーゼルエンジンの煤煙粒子をオイル中に細かく分散させたり、懸濁させたりすることです。
アルキルコハク酸イミド、アルキルチオホスホネート、コハク酸エステル/アミド、およびそれぞれの誘導体が、広く使用されている高分子および無灰分散剤です。分散剤と洗剤の混合物は、酸性化合物のさらなる中和を強化し、また汚染された粒子を浮遊させたままにします。したがって、分散剤の需要の増加は、潤滑油添加剤産業にプラスの影響を与えます。
酸化防止剤セグメントは、予測期間中に急速なペースで成長すると予想されます。酸化防止剤は、酸化防止剤とも呼ばれ、ベースオイル成分の酸化を防止するために広く利用されており、その結果、潤滑油の寿命が延びます。潤滑油の分子はほぼすべての温度で酸化しますが、高温では酸化が促進されます。
さらに、水、摩耗粉、その他の汚染物質によって潤滑油の分子が酸化され、酸やスラッジが生成される可能性があります。潤滑油分子の酸化を防ぐために、近い将来、酸化防止剤の需要が高まると予想されます。したがって、これらの添加剤の広範な採用が、予測期間中の市場拡大を後押

しすると予測されます。
極圧添加剤の需要は、極圧グリースの需要増加により、今後数年間で上昇すると予想されます。極圧潤滑は、摩擦の低減、摩耗の抑制、表面の深刻な損傷の回避のために、高温高圧でのギアやベアリングの重荷重用途で必要とされます。

潤滑油添加剤の需要は、アジア太平洋地域で大きく伸びると予想されています。同地域は、2021年の世界市場シェアの34.2%を占めています。これは、同地域における自動車産業の成長、可処分所得の増加、厳しい排ガス規制が要因として挙げられます。
例えば、Invest
Indiaが発表した推計によると、小型車や中型車、乗用車の膨大な需要により、乗用車の販売が加速しており、インドの自動車部門におけるシェアは約17.4%を占めています。インドでは、2021年4月 から2022年3月
までの間に、乗用車の輸出台数が404,397台から577,875台に、商用車の輸出台数が50,334台から92,297台に増加しました。
また、世界の潤滑油添加剤ビジネスでは、北米と欧州が顕著なシェアを占めている。これは、これらの地域で排ガス規制が強化され、潤滑油の製造に添加剤が採用される可能性があることに起因しています。これらの潤滑剤はエンジンに適合し、低排出ガスと優れた燃費を実現します。
これらの添加剤は食品産業で広く使用されており、これらの地域における潤滑油添加剤の市場需要にプラスの影響を与えるでしょう。例えば、FoodDrinkEuropeによれば、欧州は世界有数の食品・飲料輸出国で、EU域外への輸出は1,450億ユーロに達し、670億ユーロの貿易黒字を計上しています。

■レポートの詳細内容はこちら
https://www.marketresearch.co.jp/data1/lubricant-additives-market-product-viscosity-index-vi-improver/

■レポートに関するお問い合わせ・お申込みはこちら
https://www.marketresearch.co.jp/contacts/

■調査会社Transparency Market
Research（トランスペアレンシーマーケットリサーチ）について
https://www.marketresearch.co.jp/Transparency-Market-Research/
株式会社マーケットリサーチセンターはTransparency Market
Researchの日本での正規販売代理店です。

■株式会社マーケットリサーチセンターについて
https://www.marketresearch.co.jp/
主な事業内容：市場調査レポート販売、市場調査サービス提供
本社住所：〒105－0004 東京都港区新橋1－18－21
TEL：03－6161－6097 FAX：03－6869－4797
マーケティング担当 marketing@marketresearch.co.jp

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com